

第 3 次鶴岡市地球温暖化対策実行計画（事務事業編） 2023 年次報告書

1. 計画概要

平成 30 年（2018 年）4 月に策定した第 3 次鶴岡市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）（以下、『計画』といいます。）の概要は以下の通りです。

(1) 計画期間

2018 年～2030 年（13 年間）

(2) 計画目標

計画目標は以下の通りです。

（排出量単位：t-CO₂）

	基準	短期目標	目標
年	2013	2022	2030
排出量	43,084.4	37,914.3	25,850.6

2. 温室効果ガスの算定方法

(1) 対象の温室効果ガス

計画で対象としている温室効果ガスは以下の通りです。

対象	説明
二酸化炭素 (CO ₂)	エネルギー起源：電気の使用や暖房用灯油、自動車用ガソリンなどの使用により排出される。排出量が多いため、温室効果ガスの中では温室効果への影響が大きい。 非エネルギー起源：廃棄物の焼却などにより排出。
メタン (CH ₄)	自動車の走行や燃料の燃焼、一般廃棄物の焼却、廃棄物の埋め立て、終末処理場等による下水等処理、稲作、家畜の腸内発酵などにより排出。
一酸化二窒素 (N ₂ O)	自動車の走行や燃料の燃焼、一般廃棄物の焼却、終末処理場等による下水等処理などにより排出。

(2) 算定方法

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算定を行います。

グラフや表内の数値は、四捨五入の関係で合計が合わない場合があります。

3.温室効果ガスの排出状況

(1) 2023 年度温室効果ガスの排出量

2023 年度の温室効果ガス排出量は以下の通りです。

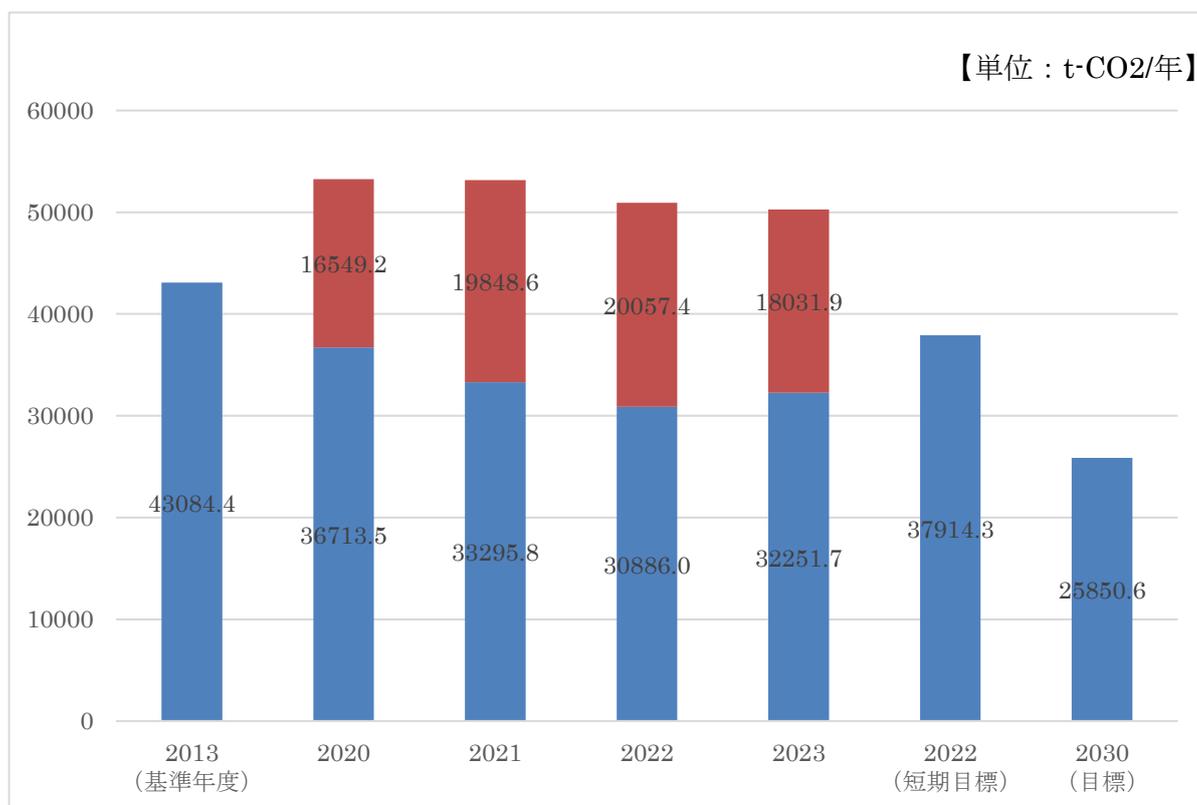
	2023 年度		2022 年度		前年度比 (1) / (2)
	t/年	t-CO2/年 (1)	t/年	t-CO2/年 (2)	
CO2	48,785.4	48,785.4	49,319.4	49,319.4	0.9892
CH4	13.7	343.2	12.4	310.1	1.1068
N2O	3.9	1,154.9	4.3	1,291.9	0.8940
合計	-	50,283.6	-	50,921.3	0.9875

温室効果ガス排出量の割合 (t-CO2 換算) としては、CO2 が全体の 97.02% を占め、次いで N2O が 2.3%、その後 CH4 が 0.68% となっております。

2023 年度は 2022 年度より温室効果ガスを 1.26%削減できました。

(2) 計画目標の達成状況

計画目標の達成状況は以下の通りです。



基準年度等と比較して大幅に増加している原因は、一般廃棄物の焼却や終

末処理場等による下水等処理時における温室効果ガスの排出量（上グラフにおける赤い部分、3.（3）表内の黄色着色箇所）を追加したためです。計画では、『市が行うすべての事務・事業』を対象としているため、計画の中間見直し時に基準年度や目標の数値については修正を行います。

（3）エネルギー等内訳

エネルギー等の内訳については以下の通りです。

温室効果ガス排出量の割合（t-CO₂換算）としては、電気が全体の43.20%を占め、次いで一般廃棄物の焼却が34.17%、その後都市ガスが8.20%、灯油が5.83%となっております。

エネルギー等	単位	使用量等	合計 t-CO ₂	温室効果ガス					前年度比 2023/2022
				CO ₂		CH ₄		N ₂ O	
				t-CO ₂	kg-CH ₄	t-CO ₂	kg-N ₂ O	t-CO ₂	
ガソリン	L	209,438.8	486.2	486.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4132
灯油	L	1,176,004.7	2,933.7	2927.6	126.8	3.6	9.6	2.5	1.0000
軽油	L	279,663.3	721.4	721.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0050
A重油	L	683,290.0	1,851.8	1851.5	0.0	0.0	1.4	0.4	0.9585
LPG	kg	129,787.9	389.8	389.2	15.7	0.4	0.4	0.1	0.9212
都市ガス	m ³	1,815,952.5	4,123.7	4117.0	211.8	5.9	3.2	0.8	0.9465
電気	kWh	49,732,553.2	21,724.9	21724.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0777
し尿処理施設	m ³	22,819.6	29.9	0.0	867.1	24.3	21.2	5.6	1.0305
終末処理場	m ³	12,027,243.7	806.3	0.0	10,584.0	296.4	1,924.4	510.0	0.9561
浄化槽	月*人槽	8,820.0	15.9	0.0	387.2	10.8	19.0	5.0	1.1044
一般廃棄物	t	42,352.9	17,179.8	16567.6	30.7	0.9	2,307.0	611.4	0.8972
公用車走行距離	km	2,456,420.9	20.1	0.0	34.3	1.0	72.1	19.1	1.0222
			50,283.6	48,785.4	12,257.6	343.2	4,358.2	1,154.9	0.9875

2022年度と比較すると2023年度は1.25%の温室効果ガス排出量を削減できました。削減に係る主な要因は、一般廃棄物の焼却量を削減できたことです。しかし、新型コロナウイルスの5類移行に伴い業務における公用車の利用が増加したことなどから、ガソリンの使用による温室効果ガス排出量は前年度と比べて増加しています。

これからも引き続き、省エネルギー機器の導入やエコドライブの推進、一般廃棄物の焼却量の削減につながるごみの分別・資源化の徹底などを推進して、更なる温室効果ガス排出量削減に努めてまいります。